

東海北陸厚生局

ひとくらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

06 若手職員に聞いてみました!!



(令和3年4月採用)

総務課

松井 良樹

- ①国民が生活していく上で必要不可欠な医療、健康、福祉、年金などに携わることができる業務に魅力を感じ、厚生局を志望しました。
- ②若手のうちから異動を経験し、様々な分野の業務に携わることができる点です。入庁から1年で異動を経験し不安もありましたが、先輩方のサポートが充実しているため、日々学びながら業務に取り組んでいます。
- ③業務でわからないことがあっても、周りの先輩に相談や質問がしやすい雰囲気があります。質問については、丁寧にわかるまで教えてください、判断に困る部分については、一緒に考えてくださるので、自分だけで悩んだり、抱え込むことはありません。
- ④面接形式なので緊張はすると思いますが、言葉に詰まってもあせらず、丁寧に言葉をつなげばきっと面接官にも思いは伝わると思います。気を張り詰めすぎず、自然体で臨むことが大切だと思います。



(令和2年4月採用)

健康福祉部食品衛生課

宮島 泉

- ①私は、厚生労働省食品衛生監視員として採用され、初めての配属先が東海北陸厚生局食品衛生課でした。私の職種では、他にも全国の厚生局や検疫所等に配属されることもあります。
- ②事務所の業務だけではなく、管内（愛知、静岡、岐阜、三重、石川、富山）に出張や外勤に行く機会があることです。業務とはいえ、遠方や訪れたことのない地域に行くことができるのは、楽しいと思います。
- ③賑やかでコミュニケーションの取りやすい職場だと思います。電話対応等で受け答えに困った際は気にかけてくださることや、仕事の進捗状況でアドバイスを頂くことがあります。そのため、一人で仕事を抱え込むことがないです。
- ④私の場合は、回答を用意していくと逆に固くなってしまうので、面接時に聞かれたことに集中して回答をしていました。人それぞれ自分に合った伝え方があると思うので、自分に合う方法を見つけて準備を進めてみてください。

Q. 若手職員さんにこんな質問をしました。

- ① 東海北陸厚生局を選んだ理由は？
- ② 東海北陸厚生局で勤務してよかった、と感じたところは？
- ③ 所属する課の雰囲気、職場の雰囲気は？
- ④ 官庁訪問時のアドバイス、教えてください。

06 若手職員に聞いてみました!



(令和3年4月採用)
指導監査課

齋藤 和広

- ① 医療や福祉などに関する、国民の生活の基盤を支えている業務に興味を持ち、魅力を感じたため志望しました。また、説明会等に出席した際に職員の方々の雰囲気等が良く、働きやすそうと思ったことも理由の1つです。
- ② 有給がとりやすいところです。局全体でライフワークバランスの推進に取り組んでいて、1年目であっても気兼ねなく休みをとることができました。私はよく金曜日や月曜日に有給をとって、連休を自分で作ったりします。
- ③ 指導監査課は医療機関等からの来客や電話が多く、職員の数も他の課に比べて多いため賑やかです。通知の解釈や、電話対応などで一人では解決できないようなことでも相談しやすい雰囲気があり、いろんな方が相談にのってくれるため、安心して仕事ができる環境だと思います。
- ④ 緊張するかもしれませんが、暗記したことを言うよりは、素の自分を会話の中でアピールする方が良いと思います。また、不安なことや気になっていることを解消する良い機会でもあるので積極的に質問してみてください。



(令和2年4月採用)
富山事務所

清水 紅杏

- ① 大学の社会福祉士養成課程において社会保障について学び、医療保険や公的年金を始めとする諸制度が私たちの暮らしを支えていることを実感し、社会保障制度に広く携わることができる厚生局を志望しました。
- ② 仕事とプライベートの両立がしやすいところです。業務目標に定時退庁や月に1日以上の有給休暇を取得することを掲げており、業務時間と自分の時間を分けてメリハリのある働き方をすることができています。
- ③ 質問や相談がしやすい雰囲気です。現在所属している富山事務所は、職員数が少ない分、所内全員とコミュニケーションをとりながら仕事をすすめることができるので、働きやすいです。また、自分と同じく富山が地元の方が多いので、休憩時間に方言を交えながらお話ししたり、ごはんが美味しいお店を教えてくださいたりすることもあり、密かにいつも楽しみにしています。
- ④ 面接される方は一緒に働くことを考えてどういう人なのかを知りたいと思うので、作り込み過ぎない自分であることが大切だと思います。また、就職活動の際は慣れないことの連続でとても疲れてしまうと思うので、リフレッシュ時間を取るといいと思います。官庁訪問を機に自分自身と向き合うことを楽しんでみてください。応援しています。

07 先輩職員からのメッセージ

静岡事務所
所長

西尾 剛



指導部門である静岡事務所では、静岡県内のおよそ 6,000 件ある保険医療機関、保険薬局に対する指導監督や届出書類の審査を主に行っています。「指導部門」ですので、監督官庁ではありますが、保険医療機関などから保険請求に関する質問も多く寄せられるなど、業務は多岐にわたります。

当事務所の職員数は 13 名で、保険医療機関等の件数と比較すると、決して多くはありませんが、全職員がチームワークを発揮しながら、日々の業務に前向きに取り組んでいます。

私は、本年 4 月に初めて静岡事務所に赴任しましたが、事務所の雰囲気も非常に良く、単身赴任の私にとっては、「家」のように感じています。所長として、さらに風通しの良い職場となるよう、常に職員との情報（仕事以外も）共有を心掛けています。また、職員から業務に関する相談があれば、一先輩として知識や経験を基にアドバイスしています。

厚生局は、専門性の高い業務が多い職場で困難な事案にぶつかることもありますが、国民の生活に直結する重要な業務を所管しており、やりがいのある職場だと思います。

厚生局の業務内容に興味を持たれた志のある皆さん、是非一緒に仕事をしましょう。



私は健康保険組合に対して監査を行う業務をしています。厚生局には、国民の生活に欠かすことができない様々な業務がありますが、その中の一つとして健康保険に関する業務があります。我が国の健康保険制度は「国民皆保険制度」といって、保険証を持っていれば「誰でも」「必要な医療を」「一部の負担で」「平等に」受けることができる、世界に誇れる素晴らしい制度です。未来に向けてこの素晴らしい制度が堅持できるよう、やりがいを持って日々仕事に取り組んでいます。

一方で、仕事を頑張るためには充実したオフが必要です。厚生局はワーク・ライフバランスの実現に向けて積極的に取り組んでおり、定時退庁やマンスリー休暇を利用して充実したオフを過ごすことができます。私はスポーツをすることが趣味ですので、仕事終わりや休日にはたっぷりと時間を使って、積極的にリフレッシュしています。

公務員志望の皆さん、厚生局には「やりがいのある仕事」と「素晴らしい職場環境」が用意されていますので、是非、厚生局に足を運んでみてください！



健康福祉部保険年金課
社会保険監査指導官

伊藤 浩司

先輩職員
からの
メッセージ



健康福祉部健康福祉課
健康福祉係長

石塚 万希子

現在は、健康福祉課でグループホームの防災改修等に関する補助金等の審査、交付事務を行っています。

現在の部署に配属される前は、厚生労働本省や東海北陸厚生局富山事務所でも勤務しました。それぞれの部署は、同じ厚生労働行政を担っていても、扱う法律や制度、業務内容も異なり、勉強するのは大変でした。しかし、法律や制度、またそれを作る国等の視点を学ぶことができたほか、相対する関係者や自治体、ときには国民の方と接し、その様々な考えや視点に触れることができました。これらの経験は、自身が仕事をしていく上での判断や理解をするときのみならず、係員からの質問や相談に対応するときや、上司へ報告や相談を行うときにも役に立っている、活かすことができていると感じます。

国民の生活に身近な分野で働くことに興味がある方、ぜひ一緒に働きませんか。



健康福祉部地域包括ケア
推進課
地域支援事業係長

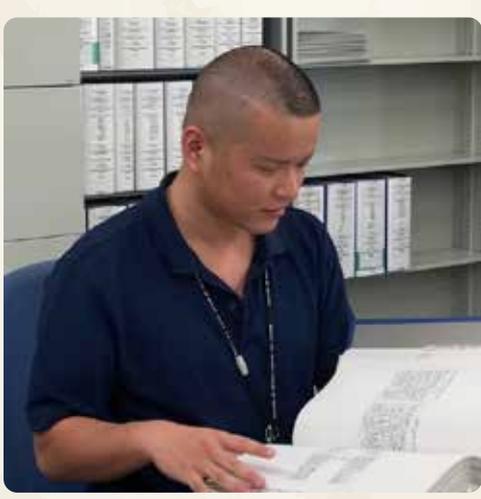
白井 一輝

私は現在地域包括ケア推進課で、地域支援事業交付金等の補助金に係る審査業務を担当しています。地域支援事業とは、要介護状態となることを予防し、もし要介護状態になっても地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業のことで、地域づくりにおいて重要な役割を果たしています。

現職に配属前の2年間、私は日本年金機構に出向し、年金事務所で国民年金の業務に従事しました。年金事務所では、実際に国民年金の加入者から直接声を聞くことができ、厚生局とは違った環境で働く中で、自分たちが国民から求められていることがより明確になり、自然と国家公務員としての視野が広がりました。現在は係長として係員に困っていないか声を掛け、目を配りながら業務に従事しています。

また、一昨年長男が生まれた際には育休を取得させていただき、生まれたばかりの長男とたくさんの時間を持つことができました。現在もメリハリをつけた働き方を意識し、妻と協力して子育てに取り組んでいます。

厚生局の業務は、生活にとっても身近でやりがいがあり、ワークライフバランスを大切にできる働きやすい職場です。興味のある方は、ぜひ一度足を運んでみてください。



年金調整課
係員

本田 一馬

私は今年の4月から年金調整課で、年金委員に関する各種届出の審査などを担当しています。

5年前に自衛隊から厚生局へ転職しましたが、それまで厚生分野はおろか事務の経験もほとんどありませんでした。正直に言ってしまうと、体を動かすことが少なくパソコンや書類に向き合うことの多い事務仕事には、未だに苦手意識があります。ですが、有休等を含め余暇を確保し易いので、趣味のツーリングに出かけたり、仕事終わりにジムや格闘技の稽古に通ったりと、体を動かす時間もしっかり設けられるので日々リフレッシュできています。

また、不得手ながらも事務職を続けられているのは、就職先を検討する際「職場の雰囲気」を重視したことが功を奏したと感じます。困ったことを周りに相談しやすい風土には大変助けられています。

公務員を志望している皆さんの中にも、働きやすさを重視される方は少ないと思います。当局はそうした観点でもおすすめできる職場です。

